

志賀原子力発電所 1号機 制御棒の点検結果について

志賀原子力発電所 1号機（沸騰水型、定格電気出力 54 万キロワット）は、平成 18 年 3 月 5 日より第 10 回定期検査を実施しております。当社では、従来から安全に万全を期す観点から、自主的な点検として定期検査毎に計画的に一定数の制御棒を点検することとされていますが、4 月 5 日に制御棒 1 本（ボロンカーバイド型）の上部（点検時に制御棒を取り扱う際のステンレス製の取手及びその近傍。中性子の吸収には寄与しない部位）に 2 箇所ひびを確認しました（以上の内容については、4 月 5 日お知らせ済み）。

その後、その他のすべての制御棒についても点検を実施し、新たに制御棒 4 本（ボロンカーバイド型）の上部に前回と同様のひびを確認しました。

ひびの原因はいずれも応力腐食割れと推定しております。

今回確認されたひびのある状態で制御棒を継続使用しても、制御棒の機能及び原子炉の安全性に影響を与えるものではありません*が、念のためひびが確認された制御棒は、今回の定期検査時にすべて新品に取り替えることとします。

今後とも、安全確保を最優先に、志賀原子力発電所の安全・安定運転に努めてまいります。

なお、本事象による外部への放射能の影響はありません。

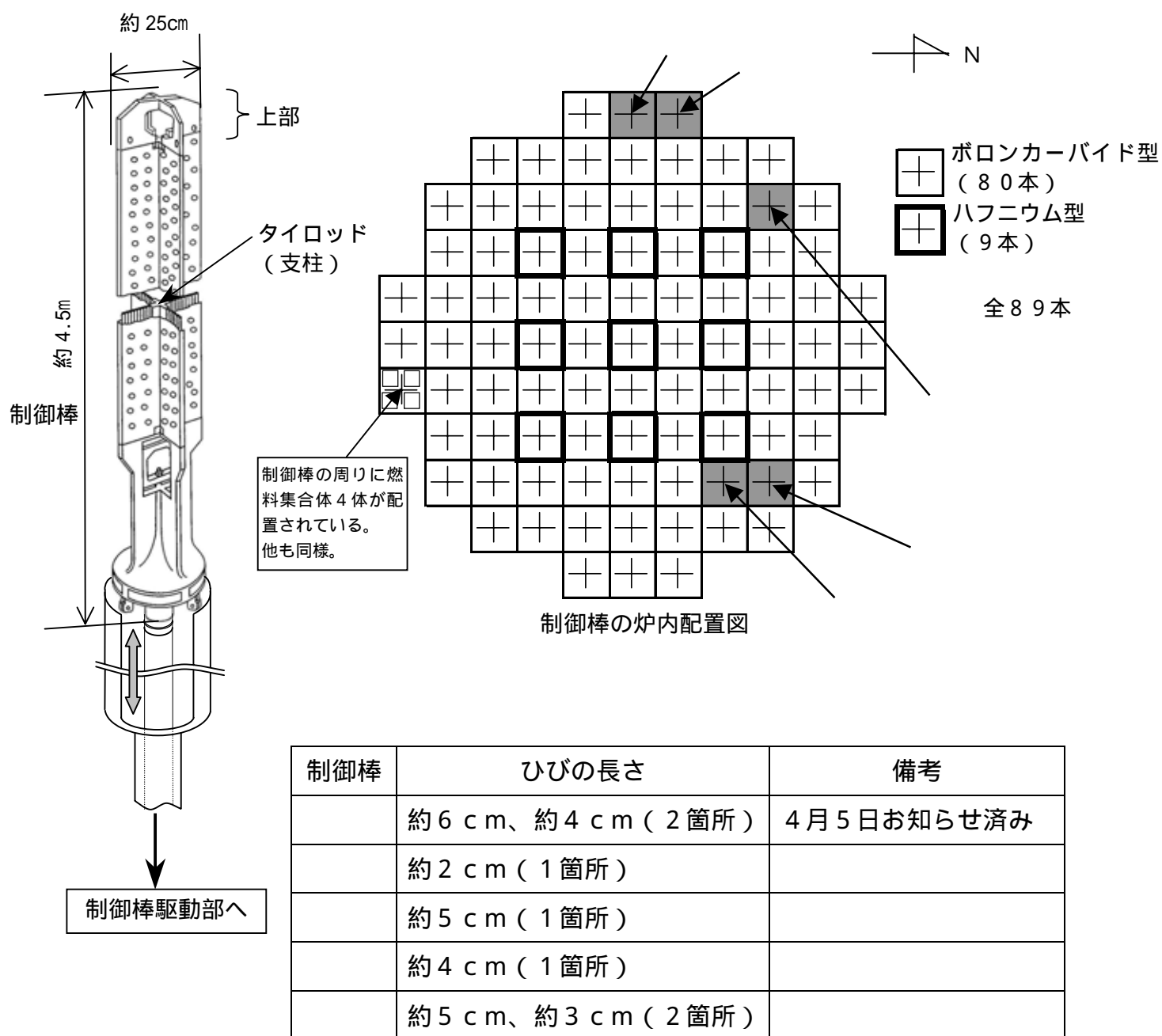
以 上

* ひびに対する制御棒の機能等への影響評価

- ・制御棒は、タイロッドと呼ばれる「支柱」で構造上の強度を保つ設計としており、タイロッドにひびはないことから問題はない。
- ・評価の結果、ひびはある程度以上進展することはない、強度上の問題はない。
- ・ひびがあった状態でも、緊急時における炉心への制御棒の挿入性の問題はない。

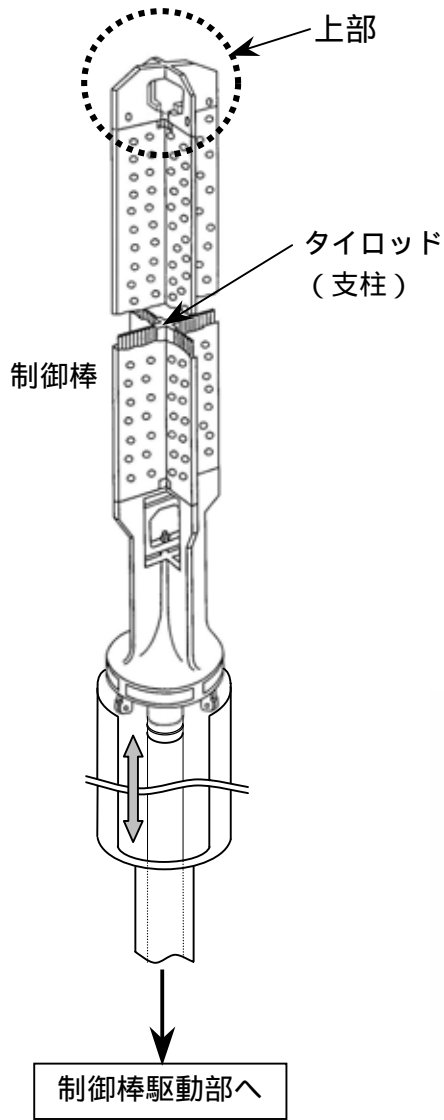
別 添 制御棒の点検結果

制御棒の点検結果

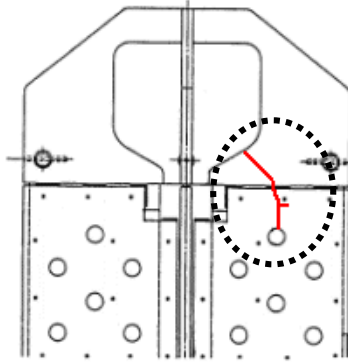


上部：点検時に制御棒を取り扱う際のステンレス製の取手及びその近傍
中性子の吸収には寄与しない部位

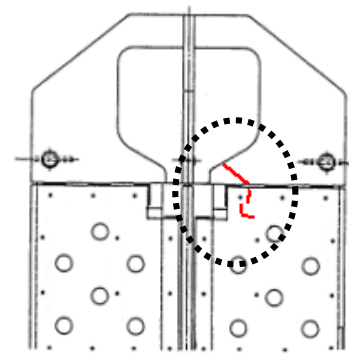
制御棒のひびの状況



制御棒 (4月5日お知らせ済み)

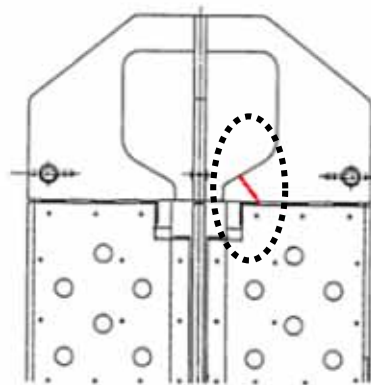


長さ約 6 cm
(裏面に約 5 cm)



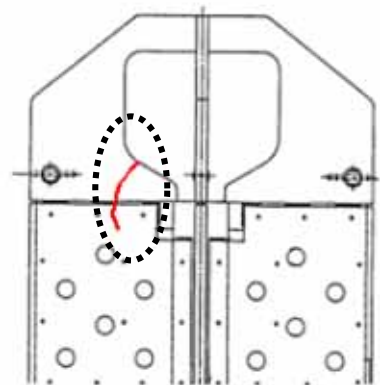
長さ約 4 cm
(裏面に約 2 cm)

制御棒



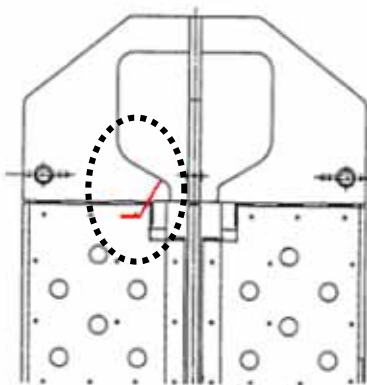
長さ約 2 cm

制御棒



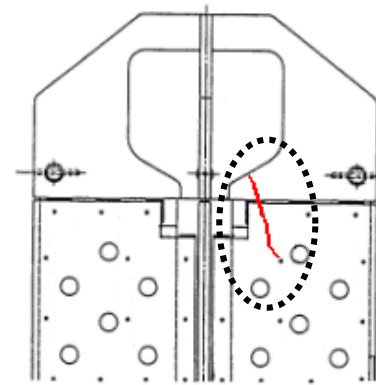
長さ約 5 cm
(裏面に約 4 cm)

制御棒

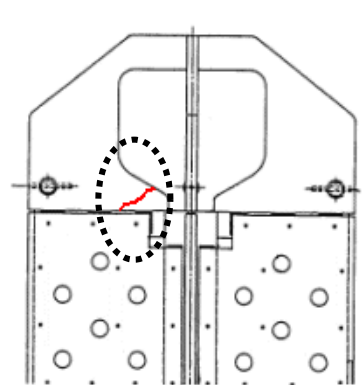


長さ約 4 cm

制御棒



長さ約 5 cm
(裏面に約 3 cm)



長さ約 3 cm
(裏面に約 2 cm)